

努力に不可能なし!

☆2/3 留学生ルイジ君 お別れ会

ブラジルからの留学生ルイジ君が、2月4日を最後に帰国の途につくことになりました。3日のアセンブリや学年集会ではお別れの挨拶の中で、「日本語や日本のことについて多くのことを学びました。この経験を生かして夢に向かって頑張っていきたい…」と日本語で語ってくれました。学年集会では、2組の古田麗司君と4組の榎本力良君が学年を代表してお別れの歌を歌ってくれました。最後の登校日4日には5組のみんなと記念撮影をして、お別れ会をしました。思い出話は尽きることなく、名残惜しい会となりました。ブラジルに帰ってからも、鶴高で学んだことを忘れずに頑張っていきたいと思えます。 ※Boa sorte とはポルトガル語で、Good luck と同じ意味です。

Boa sorte! Luigi!!



[上: 5組の生徒と記念撮影]

[右: 学年集会で歌ってくれた古田君と榎本君]



☆学年主任より

先日の学年保護者会には、本当に寒い中を沢山の方に足を運んでいただき、誠にありがとうございました。当日もお話させていただきましたが、この2月10日(月)という日が、鶴見丘高校2年生の受験モードへのターニングポイントになってくれることを切に願っております。主役の生徒たちと、ご家庭と学校がスクラムを組んで目標に向かって前進していきたいと思っています。さて、今回の学年通信は、留学生のルイジとお別れ会の様子、先日行われた読書会(「ビブリオバトル」)の特集を組んでみました。ルイジはブラジルからやって来た大人しい男子でしたが、17歳という多感な時期を日本に来ていろいろ刺激を受けてくれたようです。読書会に関しては、ただ皆で読書するだけでなく、お互いが刺激をしあえる企画となっていたはずですが、人生に影響を与えてくれるような感銘する本は人それぞれによって違いがあって当たり前だと思います。今時の高校生はどんな本に興味を持っているのか! 面白い企画だとは思われませんか……!?

学年主任 岡本秀一

☆1/22 中庭コンサート~吹奏楽部~

1月22日昼休み、吹奏楽部による中庭コンサートが行われました。吹奏楽部は2ヶ月に1回程度の割合で中庭コンサートをやってくれていますが、今回は受験に向けて頑張る3年生を応援するというメッセージを込めたコンサートでした。寒い中でしたが、明るく活気あふれる演奏で、十分元気を与えてくれました。

[右: 中庭で演奏とパフォーマンスしてくれた吹奏楽部]



☆入賞おめでとう!!

2月3日のアセンブリでは、生徒の表彰もありました。2年生関係は右のとおりです。おめでとうございます。

☆今後の行事予定

[2月] 15~16日 進研マーク模試

18~21日 AT

25日 クラスマッチ

28日 卒業式予行

[3月] 1日 卒業式



第26回大分県高等学校競書展

硬筆の部	大分合同新聞社賞	浅野 緑 (2-5)
	エフエム大分賞	首藤真奈 (2-5)
	審査員奨励賞	関屋美穂 (2-6)
	審査員奨励賞	中村 綾 (2-6)
毛筆の部	審査員奨励賞	関屋美穂 (2-6)

☆2/5 ビブリオバトル（知的書評合戦）

本さえあれば至福の人生!!



2月5日、ホームルームの時間を利用して、ビブリオバトルが行われました。ビブリオバトルとは知的書評合戦とも言われ、みんなで集まって自分のお気に入りの本を5分程度で紹介し合い、読みたくなった本＝「チャンプ本」を投票で決定するというスポーツのような書評会です。今回、初めての試みで少し戸惑ったクラスもあったようですが、回を重ねるごとに盛り上がっていきそうです。「本さえあれば至福の人生」というのは95歳まで長生きしたある人の言葉です。確かに読書は人生を豊かにしてくれるものです。今回の取り組みが、読書の魅力の再発見になればと思います。以下に各クラスのチャンプ本を紹介します。



[本の紹介をする安部太貴君(6組)]

[1組] 『夏の庭』 湯本香樹実／著

この本は、小学6年生3人組と1人暮らしをしている老人との物語です。見どころは老人と3人の少年の「情」の変化です。最初はうまくいかなかった関係が、話をしたり一緒に何かをすることで友情という「情」が芽生え、深まってゆくのです。途中でラストがどうなるかだいたいわかって来ますが、でも、感動します。 伊藤寛人

[2組] 『必ず黙らせる！10倍返し技術』 大人の会話研究会／編

何かとストレスのたまる現代社会。文句を言いたくても相手が上司や先輩だと言いつらい…。しかし、この本を読むと言いたいことが言えるようになります(たぶん)。さぁこれであなたも倍返しだ！ 今留蓮

[3組] 『プラチナデータ』 東野圭吾／著

この本のおすすめの理由はなんと言っても物語の疾走感です。主人公の神楽龍が自身の開発したDNA解析装置によって自分のDNAが連続殺人事件のDNAと一致してしまい、追う側から追われる側へと変わってしまう。神楽の二重人格、事件の真相、真犯人…。最後の最後まで息も吐かせない展開がおもしろいところです。 今村日菜美

[4組] 『あっこと僕らが生きた夏』 有村千裕／著

野球部のマネージャーで闘病生活を送っているあっこ。「あっこを甲子園に連れて行く」を合い言葉に自分のことよりも人のために努力する野球部員の姿やあっこが自分の病気を直すことよりも友達と一緒に過ごす時間を選ぶという友達思いの姿に感動します。これが、この本のおすすめの理由です。 井上佳南

[5組] 『あずきバーはなぜ堅い?』 おいしい雑学研究会／編

この本は普段私たちが口にしている食べ物についての雑学が多く書かれています。その内容は、本のタイトルにもなっている「なぜ、あずきバーは堅いのか?」や「ポン酢のポンの由来は?」など、誰もが一度は疑問に思ったことが扱われています。とてもおもしろいので、是非読んでほしいと思います。 工藤敦史

[6組] 『北斗の拳』 武論尊／著

オヤジ世代の若かりし頃、少年達の心をわしづかみにしたマンガ。登場人物がえげつなくカッコいい。男なら誰でも憧れる強さがここにはある。物語ではケンシロウはどんどん強くなってゆくが、というより初めから強すぎて、そこがインタレストィングだ。 矢野健太郎